

分詞のまとめ

1. 基本的意味 現在分詞 「能動」(～する、～している)
過去分詞 「受動」(～された・る)
2. 形容詞的働き→名詞・代名詞を修飾する、名詞・代名詞の状態を説明する
 - 限定用法 分詞+名詞(前置修飾)、名詞+分詞(後置修飾)
自動詞の過去分詞+名詞は「完了」を表す fallen leaves
 - 叙述用法 2文型、5文型の補語になる分詞 (SVC, SVOC)
いろいろな動詞が上記文型につかわれる。
2文型: come, sit, lie, return, stand, look, feel
5文型: 知覚動詞
leave, keep, catch, like, want, find, set
have / get*
make: make oneself understood / make oneself heard
の二つのみを覚えればよい
* have / get O done は「使役」「被害」「完了」など種々の意味になる
 - 分詞形容詞 interesting, excited, pleased, astonished
3. 副詞的働き(分詞構文)→従属節として主節の動詞を修飾する
主節と従属節の主語が一致、動詞の時制が一致→接続詞と従属節の主語をとり動詞を現在分詞で始める(原則)
 - 分詞構文 + 主節 Doing ..., SV ~ (時、理由、譲歩、条件など)
 - 主節 + 分詞構文 SV ~, doing ... (同時、逐次)
 - さまざまな形
 - 1)否定形 分詞構文の先頭に not / never をおく
 - 2)受動態 being / having been で始まるが、通常は being / having been を省略する
 - 3)完了形 having p.p. 主節と従属節の時制が一致しないときに用いる操作。主節の時制より前の時を表す。
 - 4)be 従属節の動詞 be が分詞構文で being/ having been になり省略されたとき、形容詞・名詞で始まる
 - 5)独立分詞構文 主語が一致しないときに、従属節の主語を残す
 - 6)慣用的な独立分詞構文 上記 5)と同じだが、従属節の主語を慣用的に表示しない。そのまま覚える generally / strictly / frankly speaking, judging from (the look of the sky), speaking/ talking of, considering, supposing, provided / providing

4. 分詞を含む慣用表現

- with O doing / done (付帯状況)
- go doing (go shopping / skiing / fishing, etc.)
- be busy doing
- spend O doing
- have difficulties doing
- there is S doing / done
- the + 現在分詞 / 過去分詞 (the dying, the injured)